

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	UniE'terna新潟大学南	
建設地	新潟県新潟市西区大学南1丁目33-8 他2筆	
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	
建物用途	集合住宅	
竣工年	2023年2月 予定	
敷地面積	2,492.04 m ²	
建築面積	1,424.27 m ²	
延床面積	5,587.45 m ²	
階数	地上5F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2022年3月11日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{40.9}{40.4} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.2		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.7		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 2.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.7		節水	LR2.1.1 3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1 2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

内装仕上げ・外装仕上げで建物の長期維持管理ができるようなものを採用している。(防汚性)
省エネルギー対策のために十分な断熱材や二重サッシを使用して部屋の熱損失を防げるようにしている。
LGS工法によって躯体と仕上げの分別が容易となるようにされていて部材再利用可能性向上に取り組んでいる。

CASBEE新潟

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	UniEterna新潟大学南	階数	地上5F
建設地	新潟県新潟市西区大学南1丁目33-8 他2筆	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	平均居住人員	190 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年3月11日
敷地面積	2,492 m ²	作成者	杉澤 毅
建築面積	1,424 m ²	確認日	2022年3月11日
延床面積	5,587 m ²	確認者	杉澤 毅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項	
総合	長期的に建物が使用されることを目的に外壁塗装で建物の汚れを防ぎ、建物まわりに植栽をして良好な外観が維持できるようになっている。
その他	特に無し
Q1 室内環境	F☆☆☆☆材料を全面的に採用し、室内に十分な昼光・自然風が入る窓を採用して室内環境を向上させている。
Q2 サービス性能	床や外壁に防汚性の高い仕上りや塗装を施したり耐用年数が長期な配管材料を採用したりすることによって建物の長期維持を図っている。
Q3 室外環境(敷地内)	外構に緑地、植樹をして景観・敷地内の環境向上を図っている。
LR1 エネルギー	人感センサーつき・調光可能なLED照明を採用している。
LR2 資源・マテリアル	LGS工法を採用し、躯体と仕上げ材が容易に分別できるようにされている。
LR3 敷地外環境	十分な駐輪場を設けて学生の自転車利用を促している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される